OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	平沼騏一郎と一五年戦争
Author(s)	滝口, 剛
Citation	
Issue Date	
oaire:version	
URL	https://hdl.handle.net/11094/39097
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【2】

氏　　　　名	滝口　剛（たきぐち つよし）
博士の専攻分野の名称	博　士（法　学）
学 位 記 番 号	第　11709　号
学位授与年月日	平成７年３月23日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 法学研究科公法学専攻
学 位 論 文 名	**平沼騏一郎と一五年戦争**
論 文 審 査 委 員	（主査） 教 授　多胡　圭一 （副査） 教 授　林　　毅　　教 授　神余　隆博　　助教授　竹中　　浩

論 文 内 容 の 要 旨

平沼騏一郎は，昭和の一五年戦争期において，首相や内務大臣を歴任し重要な役割を果たしたが，その政治的位置は大きく変化した。満州事変期には「革新」派と呼ばれ近衛新体制期には「現状維持派」と呼ばれるようになる。この変化を平沼の「権威主義」思想が現実政治の中でどのように機能するかを検討することによって説明する。

平沼の権威主義思想は，天皇を核として「教化」と「制圧」による儒教的「権威主義」支配を目標とするものであった。この思想は，大正デモクラシーと反対のものであったが，軍部中堅層を推進力とする「革新」派の国防国家構想とも矛盾する側面を持っていた。後者は，国家機構の強化，国民動員の過程における「平準化」の契機を含む点で，平沼の天皇の権威と権威主義的秩序の尊重思想と矛盾したからである。この矛盾は，満州事変期には「満蒙問題」の解決が優先したために露呈しなかったが，軍部の「国防国家」を推進する力が強まるにつれてあらわになった。大政翼賛会をめぐる平沼と軍部・革新派との対立はその頂点であった。

しかし平沼の国内秩序や治安の維持を重視し「国体」擁護を最優先する姿勢は，特に対外的問題に関する見解の揺らぎをもたらすことになった。満州事変期にも平沼は軍部の暴発を懸念して極度に宥和的な姿勢をとった。この時は，平沼と軍部は満蒙問題をめぐって見解がほぼ一致していたために，平沼の「懸念」の側面は表面化しなかった。だがアメリカとの戦争には平沼は消極的で軍部との意見の相違も自覚されていたにもかかわらず，太平洋戦争開戦後の和平工作には，微妙な姿勢を示したのである。平沼の国内治安と国体問題を重視する姿勢が，このような反発と宥和の「二重性」をもたらしたのであった。この「二重性」は同時に平沼の影響力の「二重性」でもあり，また逆の観点に立てば軍部の影響力の「二重性」でもあった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は，昭和の15年戦争期において重要な政治的役割を果たした平沼騏一郎の政治的位置の変化を，平沼の「権威主義」思想の現実政治の中での検討を通じて説明しようとするものである。設定された課題は極めて重要かつ難しいものであるが，説明の論理は明快かつ説得的である。結論として従来不明確であった平沼の政治的役割と現実政治の関係を明らかにし，15年戦争期の政治史研究に大きな貢献をするものと判断する。博士号を授与するに十分な水準

に到達していると評価する。